

Introduction to Krita for PhotoShop Users

David Revoy <davidrevoy@gmail.com>

Inge Wallin <inge.wallin@kogmbh.com>

目次

はじめに.....	1
Krita の基礎.....	2
ビューと表示.....	2
移動および変形.....	2
選択範囲.....	2
レイヤー処理.....	3
ペイントツール.....	5
調整.....	6
テーマ.....	6
Krita にあって PS がないツール.....	7
ブラシエンジン.....	7
変形.....	7
インクリメンタル保存.....	7
Color2alpha フィルタ.....	7
大量のブレンドモード.....	8
ペインティングアシスタント.....	9
左右対称／平行／ミラー.....	9
多種多様なカラーセレクト.....	10
Krita がないもの.....	10
最後に.....	11

はじめに

このドキュメントはフォトショップの使用者に対し Krita の紹介をするものです。そして Krita での作業をできるだけ早く生産的にし、古い習慣から新しい習慣への転換が少しでも楽になるようサポートするものです。

この文書の導入部分は Krita バージョン 2.7 を念頭に置いて書かれています。今後変更があったとしても、基本の部分はほぼ変わりません。

まず覚えておいていただきたいことは、Krita が **2D ペイントアプリケーション**なのに対し、フォトショップ (PS)は画像操作プログラムである、ということです。これが意味するところは、PS には Krita より多くの機能があるが、Krita にはデジタルペインティングと関連性のあるツールがある、ということです。Krita に慣れていただければ、特に上級のデジタルペインティングに関して PS にはない機能があることがわかってくるはずです。

Krita の基礎

本章では PS と比較して Krita の基本的なオペレーションでの使い方をご説明します。

ビューと表示

操作

Krita では以下の方法を使い、ドキュメントの操作をすることができます。

1. マウスホイール: ドキュメントをズームするには上下に動かし、パンするにはホイールを押します。
2. キーボード: テンキーの[+]および[-]ボタンでズーム、スペースキーでパン。
3. フォトショッパやペインター(Painter)、マンガスタジオ(Manga Studio)と同様に: [Ctrl]+[space]でズーム、[space]キーでパン。

注: [Alt]キーも加えて[Ctrl]+[Alt]+[Space]を使った場合、別々のズームになります。

回転

[Shift]+[Space]かテンキーの 4 か 6 でキャンバスを回転させます。テンキーの 5 で回転のリセットをします。

ミラー

ドローイングやペインティングがビューポート上でミラーリングされているか確認するには[m]を押します。

移動および変形

コンテンツの移動や変形は Krita に入っているツールで行うことができます。これらのツールはツールバーに入っています。

PS において、[Ctrl]を押し続けてレイヤーを動かす方法に慣れている場合、Krita でも同じことができます。移動ツールは[T]を押します('T'ranslate=移動 と覚えてください)。変形ツールは[Ctrl]+[T]を押します。

変形や移動が終わったあとブラシツールに戻るには[B]を押します。

変形ツールを使ったさらに進んだ変形のさせ方について調べる場合、オンキャンバスのウィジェットの右クリックはしないでください。すべてのオプションは Tool Options のドックに入っています。

[Enter]を押すと、変形ツールでの変更が反映されます。

注: 移動ツールの変更は自動で反映されません。

選択範囲

PS と違い、アクティブになっている選択範囲に追加したりそこから削除したりする場合、[Alt] や [Shift]は使えません。

その代わりに、Krita はこれが行えるようサブツールを用意しています。選択ツールがアクティブであればツールオプション(Tool Option)からツールを選択することができます。これらのサブツールはアイ

コンで表示されています。

以下を押すことでサブモードに切り替えることができます。

- R 選択の置き換え
- T インターセクト¹
- A 選択に追加(使用頻度高)
- S 選択から削除(使用頻度高)

注: 選択を移動する場合[Ctrl]は使いません。移動ツール(Move Tool)を選択するために[T]を押してください。

その他のヒント:

- レイヤーを選択に変換(見えているピクセルを選択するために)したい場合、レイヤーを右クリックし、「select opaque」を選んでください。
- 多角形選択ツールを使用する、あるいは選択範囲を「閉じる」必要がある場合、ダブルクリックか[Shift]を押しながらのクリックで可能です。

選択範囲を動かすことはできませんが、スケールは可能です。選択範囲をスケールするには Select > Scale (注:

Select メニューには grow, shrink, feather, border などの昔からあるオプションもあります。)

- [Ctrl] + [H]: 選択範囲の Show / Hide(同じショートカット)
- [Ctrl] + [A]: すべて選択
- !\ [Ctrl] + [Shift] + [A]: すべての選択を解除(PS のように[Ctrl]+[D]ではありません。)

Gimp ユーザーへの注記: Krita は[Ctrl]+[C]、[Ctrl]+[V]のあと選択範囲から作成された新規レイヤーを自動で拡張、および固定しますので、ペーストしたエレメントの外でペイントできないということに対して心配する必要がありません。

レイヤー処理

よく使用されるショートカットはほぼ同じです。

- [Ctrl] + [J]: 複製
- [Ctrl] + [E]: 統合
- !\ [Ctrl] + [Shift] + [E]: すべて統合(PS のように[Ctrl]+[Shift]+[M]ではありません。)
- [insert]: 新しいペイントレイヤーを挿入します。

グループおよびブレンドモード(コンポジットモード)

Krita のグループブレンドモードの優先度はチャイルドレイヤーよりも高く、オーバーライドします。PS ユーザーはこのことに驚かれるかもしれませんが、PS では、グループを使ってレイヤースタックを整理し、すべてのスタックを通してレイヤーコンポジティングのブレンドモードを維持しておくことができます。Krita ではコンポジティングはグループ内の最初のレベルで起こり、グループそのもののブレンド

モードを考慮します。

-
- 1 この機能は現在意図したように動作しません。インターセクトは[T]をショートカットとして使う選択モードです。ですが、[T]は移動ツールに切り替えるのにも使われるため、このショートカットは現在機能しません。ツールオプション (Tool Options) のボタンを使ってください。

どちらのシステムにもそれぞれメリット、デメリットがあります。コンポジティングに関しては Krita の方法の方が予想しやすいと言うアーティストもいます。PS の方法は、視覚的にきれいに整理されたレイヤースタックができます。

マルチレイヤー変形あるいは移動

スタックの複数レイヤーを選択することはできませんが、グループ内のレイヤーを動かすと、グループ全体を動かしたり変形したりできます。グループで選択したり、その場で中にあるサブレイヤーをすべて削除したりもできます。複数のレイヤーに作用させるためにグループにフィルターを適用することはできません。

クリッピングマスク

Krita にはクリッピングマスクはありませんが、レイヤーグループとインヘリットアルファ (inherit alpha) を使った方法で同様のことができます (アルファアイコンをご覧ください)。クリップしたいシェイプのレイヤーをグループのいちばん下に置き、その上にインヘリットアルファ (inherit alpha) オプションのレイヤーを置きます。こうすることで PS の機能の「クリッピングマスク」と同じ効果が得られます。

その他

レイヤーとグループはエクスポートできます。レイヤー (Layer) のトップメニューをご確認ください。その他多くのオプションもこの中にあります。

!! [shift]+[click]で選択したもの以外、スタック内のレイヤーのビジビリティはオフにできません。

注: Krita には PS の少なくとも5倍の数のブレンドモードがあります。ドロップダウンメニューの中のカテゴリによってソートされています。チェックボックスを使って、お気に入り (Favorite) カテゴリによく使うものを追加することができます。

ペイントツール

これが Krita の強みです。大量のペイントツールがあり、ツールにはさらに大量のオプションがあります。

ツール

Krita では「ツール」を定義するためのパラダイムが PS とはまったく違います。PS と違い、ブラシ、消しゴム、コピー、ぼかしなどのツールはありません。

その代わりにキャンバス上で自分の描いた線を「トレースする方法」があります。フリーハンド、ライン、長方形、円、マルチプルブラシなど。「トレースする方法」を選んだら、「ペイントする方法」を選択することができます。消す／コピーする／ぼかすなどはすべてブラシエンジンオプションで管理される「ペイントする方法」の一部です。これらのブラシエンジンオプションは、ブラシプリセット (Brush presets) 中のプリセット (presets) に保存されています。

上部ツールバーの「ブラシの設定を編集」(Edit Brush Settings) アイコンを使って微調整したり独自のプリセットを作ったりすることもできます。

消しゴム

Krita では、消しゴムはツールではありません。ブレンドモード (あるいはコンポジットモード) のひとつです。[E]を押して消す必要のあるブラシを変更することができます。再度[E]を押すと、最初に[E]を押す前に選択していたブレンドモードに戻ります。

便利なショートカット

- [Shift]: ブラシサイズの変更(または[Shift]を押しながら[]または[])を押す)
- [/]: 最後に選択したプリセットと現在のプリセットを切り替え(例: 鉛筆プリセットと消しゴムプリセット)
- [K]と[L]: アクティブカラーの明暗の増加
- [I]と[O]: 不透明度の値をプラスあるいはマイナス方向に増加
- [D]: 描画色、背景色をそれぞれ黒／描画色、白／背景色にリセット
- [X]: 描画色と背景色の切り替え
- [Shift]+[I] / [Shift]+[N] / [Shift]+[M]: オンキャンバスカラーセレクター (on-canvas color selector) へのアクセスに使うデフォルトショートカット¹

安定化／パススムージング

ツールオプションにあるフリーハンドの「ブラシでペイント」(paint with brush) ツールを使って、パスを滑らかにしたりブラシストロークを安定させたりする設定が可能です。

グローバル筆圧曲線

ペイントの筆圧が高い、あるいは低いと感じたら、ここで曲線の筆圧をより高く、あるいはより低く設定することができます。Settings > Configure Krita > Tablet settings

調整

PSと同様、ペインティングしながら昔からあるフィルタを使って多くのものを調整できます。

- [Ctrl]+[L]: レベル
- [Ctrl]+[U]: HSV 調整
- [Ctrl]+[I]: 反転

テーマ

Krita のデフォルトの暗いテーマを変えたい場合は以下のようにして変更してください。

Settings > Themes より明るい、あるいは暗いテーマを選びま

す。ビューポートの外の色を変えたい場合は以下のようにして変更してください。

Settings > Configure Krita > Display キャンバスボーダーカラー (Canvas border color) を変更します。

1 これらのショートカットを少し残念だと思う人もいます。ペインティングのときに使用するためのショートカットなのですが、左側の[shift]キーは[I]、[M]、[N]の反対側にあります。よって、右利きのペインターにとっては右でスタイラスを使っているときに使うのがとても難しいのです。設定 (Settings) 中のショートカットコンフィギュレーター (shortcut configurator) を使って、ショートカットを再アサインすることができます。→ Configure Shortcuts

Krita にあって PS にはないツール

「はじめに」にもありますが、Krita はペイントに特化したアプリケーションです。よって、PS のような汎用性の高い画像操作アプリケーションにはないペイントに特化したツールがたくさんあります。以下にそのうち重要と思われるものをリストしておきます。

ブラシエンジン

Krita には「ブラシエンジン」と呼ばれるものがたくさんあります。これらのブラシエンジンはキャンバスにピクセルが最終的にどう描かれるかについてさまざまな方法を定義します。グリッド(Grid)、パーティクル(Particles)、スケッチ(Sketch)などのブラシエンジン(Experimental を試してみてください!)はブラシの動作についての新しい経験を、そして結果に新たな展望をもたらしてくれます。

変形

Krita の変形ツールはグループに変形を実行し、子どものレイヤーにも影響させることができます。また変形をさせるときに[Ctrl]を押すとシェイプをパースペクティブに動かすことができ、パースペクティブを保ったまま回転させたりスケールをかけたりできます。

動画資料: <http://youtu.be/kgTkfebleCE>

インクリメンタル保存

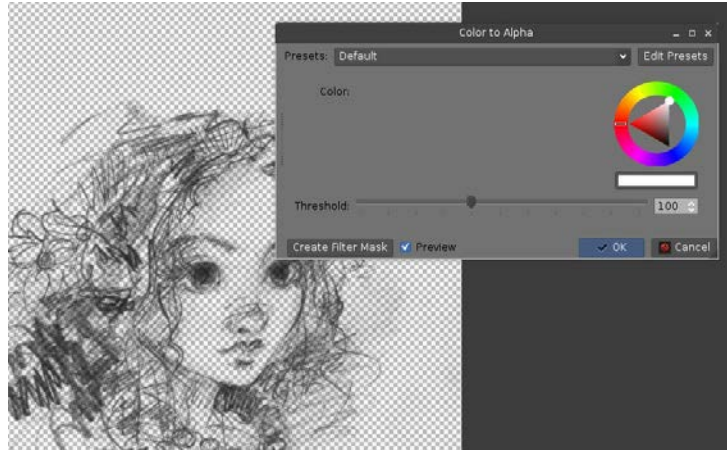
アートワークをパターンで保存することができます。キーボードの一つのキーを押すことで myartworksname_001.kra、myartworksname_002.kra、myartworksname_003.kra などと保存できます。ファイルの最後に_XXX がつくというパターンが認識されたら、Krita が最後の数字を自動で上げていきます。



この機能はファイルの上書きを防ぎ、古いバージョンや作業途中のものも記録されます。

Color2alpha フィルタ

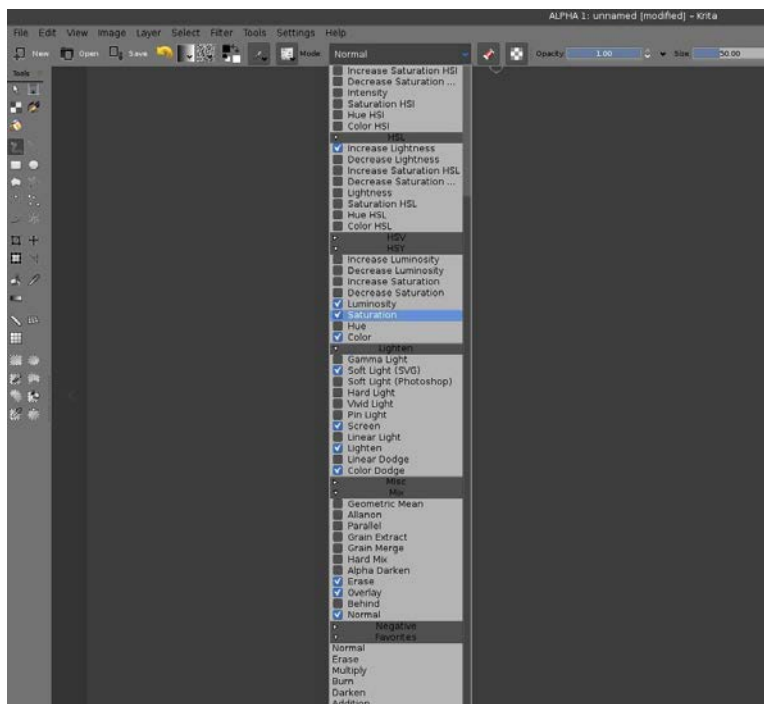
スキャンしたアートワークから紙の白を消したい場合、このフィルタを使います。色を取り、純粋に透明にします。



大量のブレンドモード

ブレンドモードを使うのが好きなら、Krita には 70 を超える大量のモードが用意されています！ いろいろな実験ができます。

お気に入りのブレンドモード (favourite blending modes) の特別なシステムが作られていますので、もっともよく使うものにすばやくアクセスできます。



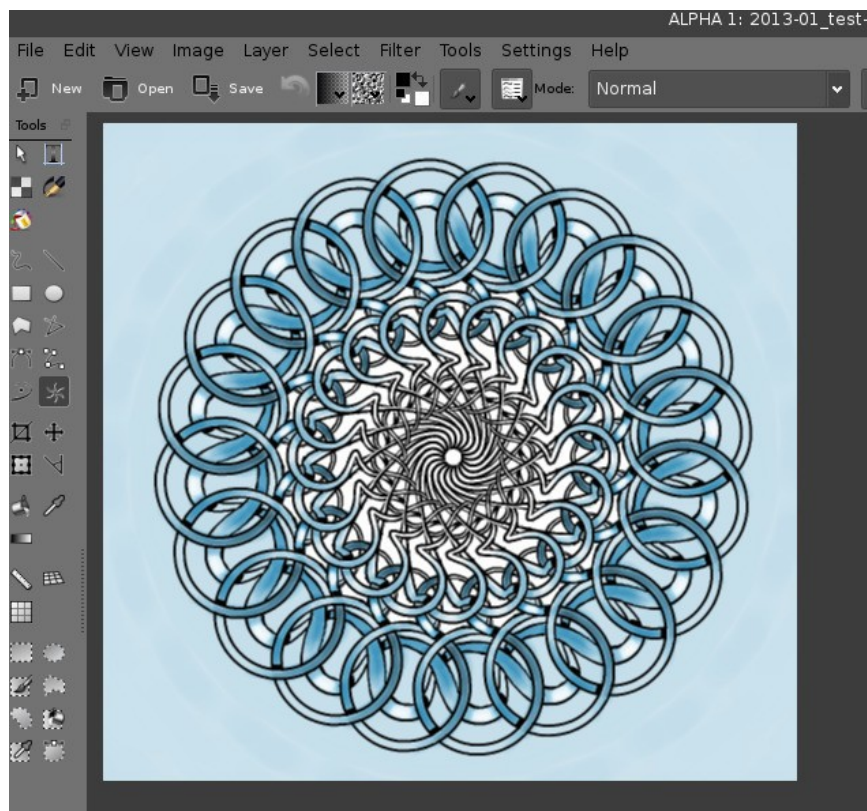
ペインティングアシスタント

Krita にはたくさんのペインティングアシスタントがあります。これはブラシストロークに磁気の影響が与えられた特殊なタイプのベクターシェイプです。ルーラーとして使えますが、ただの直線ではなく他のシェイプで。



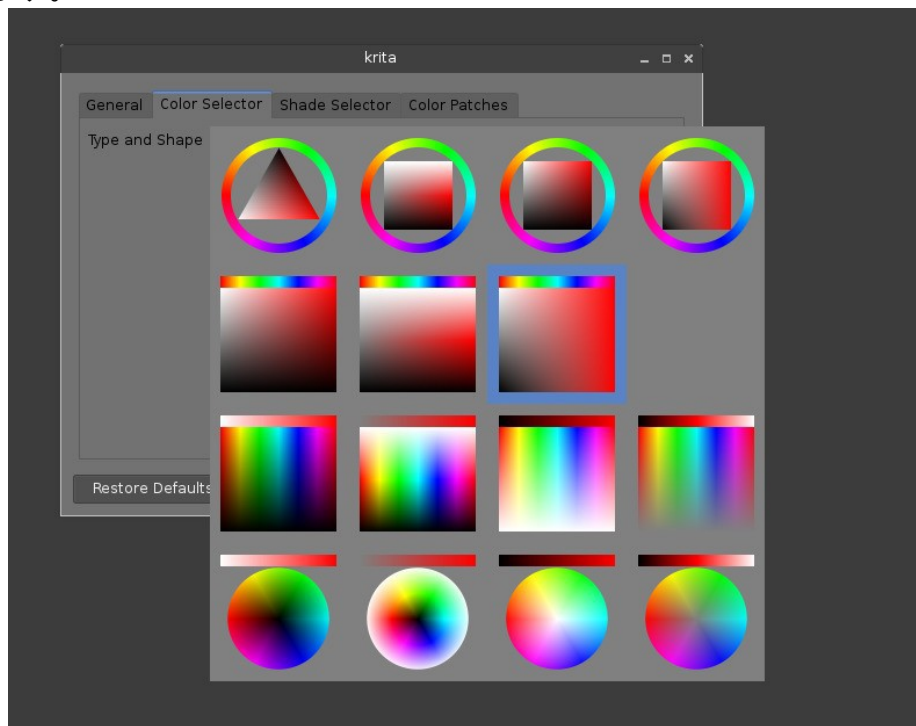
マルチブラシ: 左右対称/平行/ミラー

Krita のマルチブラシツールを使うと、複数のブラシで同時にペイントすることができます。メインブラシ以外のブラシの動きはペイントしたものをミラーリングするか、軸の周りに何回も複製することで作成されます。パラレルモードでも使用できます。



多種多様なカラーセレクト

アドバンストカラーセレクト (advanced color selector) ドッカーは多種多様なカラーセレクトを提供してくれます。



Krita にないもの

繰り返しますが、Krita はデジタルペイントアプリケーションであり PS はいくつかのペインティング機能を持つ画像操作プログラムです。よって PS にできて Krita にできないということもあります。ここでは Krita にはできないことをいくつか挙げておきます。

同画面で複数のドキュメントを編集、比較すること

Krita で2つ目のドキュメントを開くというのは2つ目の Krita を開くということと同じです。したがって、同時に 16 のファイルを編集したり作業したりする場合、16 の Krita を開くことになります。

ツールは、開いたそれぞれの Krita で独自に動作します。よって、ブラシを選び開いているすべての画像に変更を加えるということとはできません。1度に行うのは1つのドキュメントの作業にとどめておくのが賢明です。

レイヤー効果

Krita はダイナミックドロップシャドウ、アウトサイドグロウ、エンボス、クリース、その他レイヤーへのダイナミック効果は行いません。よって、タイトルをエンボス加工したり、テクスチャをスクラッチしたり、アートワークに細かいフェイク2D スカルプトを施すことなどはできません。またダイナミックライトセーバーやネオン光彩もできません。

フィルタ

Kritaには多くのすばらしいフィルタが用意されていますが、PSでよく使う特殊フィルタやカラー調整ツールのうちKritaにないものもいくつかあります。たとえば、カラーバランスフィルタやHSV調整で特殊カラーを調整できる機能はありません。

自動修復ツール

Kritaには自動修復ツールはありません。ですが、コピーツール(clone tool)というものがあり、自動ではありませんが修復に使うことができます。

マクロの記録

Kritaにはマクロの記録と再生機能もありますが、現時点ではうまく動作しません。

複数レイヤーの選択

たとえば2つのレイヤーを選んで同時に削除したり、あるグループに移動したりすることはできません。レイヤーへのアクションは1つずつにしかできません。

テキストツール

KritaのテキストツールはPSの同様のツールより劣ります。

四隅自由変形ツール

Kritaは画像の四隅のハンドルを自由に動かして変形させるということではできません(例:ポスターをパスにするなど)。変形中に[Ctrl]を押すことで近いことはできますが、あまり正確ではありません。

変形中のブレンドモード

レイヤーや選択範囲をKrita内で変形する際、トップのレイヤーに変形が表示され、レイヤーブレンドモードは無視されます。

その他

選択範囲の移動、ウェブへの書き出し(Export for web)、リソースマネージャ(Resource manager)、Gifフレームのイメージレディ(Image Ready)、あるいはウェブイメージのスライスなどもできません。

最後に

いままで述べてきたコツを使えば、すぐにKritaに慣れていただけたと思います。この文書に載せるべきことが他にあれば、作成者の我々にもぜひ教えていただきたいと思います。

Kritaは日々開発が進められていますので、PSにできてKritaにできないことのリストもそのうち短くなるでしょう。それに合わせてこの文書も更新していきます。